

中学校教育研修会 報告書

- 1、日時 平成29年11月20日(月) 9:50～11:30
- 2、講師 静岡県総合教育センター 参事兼小中学校支援課長 渡邊 衛先生
- 3、日程 13:30 開会 吉田部会長 挨拶・講師紹介
13:35～15:10 講演
演題「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
15:10～15:15 質疑応答
15:15～15:35 研修報告(県内先進校・県外視察)
県内先進校報告・・・吉田部会長
県外視察報告・・・(桐蔭学園)天日委員
(文科省)能勢委員
15:35 アンケート記入 閉会
- 4、運営・企画 吉田会長、野村・能勢・築地・天日・天野各委員の6名。
- 5、参加者 専門委員と静岡県内私立中学校・高校教育に携わる教員 計23名

【報告】

(内容)

4項目に分けてご講演をいただいた。パート1「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業をどうつくるか。パート2「主体的・対話的で深い学び」の具体。パート3カリキュラム・マネジメントの具体。パート4新しい学習指導要領のポイント。以上4項目である。なお、パート2とパート3の間にグループ別に分かれ演習(ジグソー法を用いて)が行われた。

(学んだこと)

・「アクティブ＝活動的＝体を活動させる」のではなく、頭を働かせること、すなわち頭が活動的であること。

・アクティブ・ラーニングを行うこと自体が目的ではなく、資質・能力を引き出すことが目的である。

・様々なアクティブ・ラーニング

正解到達型から目標創出型を目指していかなければならない。目標創出型も2つの型に分けることができる。目標創出型アクティブ・ラーニングとは、子どもの問いが明確であり、協調的な問題解決学習となっている。正解に到達しても到達する過程で得られたその先の疑問や調べたいことが生み出される学び方。ディープ・ラーニングとは、正解のない問いに子どもが主体的に自ら問いを作り、協調的な問題解決をする学び方である。これからの

アクティブ・ラーニングは正解に到達できては終わりではなく、到達したら次のゴールが探せるようなものにしていかなくてはならない。

文責：常葉大学附属橘高等学校 天野晃一郎